

2024 年度経営情報学会九州・沖縄支部／関西支部／ソーシャル・データサイエンス研究部会合同研究発表会の開催報告

九州・沖縄支部 支部長 藤井資子（ふじい よりこ）
九州産業大学商学部
九州・沖縄支部 副支部長 四本雅人（よつもと まさと）
長崎県立大学経営学部

1. はじめに

経営情報学会九州・沖縄支部、関西支部、ソーシャル・データサイエンス研究部会の合同研究発表会が2025年3月16日（日）に福岡の九州産業大学で開催されました。2022年度は経営情報学会の組織ディスコース研究部会との合同研究発表会、2023年度はソーシャル・データサイエンス研究部会との合同研究発表会を開催してきましたので、今回が第3回目となります。前々から、関西支部の渡邊先生、布施先生、森田先生からお声を掛けてもらっておりまして、ようやくジョイントが実現しました。

2. 合同研究発表会

合同研究発表会の当日には、全国から13名のご参加がありました。今回の経営情報学会九州・沖縄支部／関西支部／ソーシャル・データサイエンス研究部会の合同研究発表会では、以下の研究報告が行

われました。

第1報告「経営者視点によるDXのロードマップ」

報告者：渡邊真治（大阪公立大学）

コメンテータ：藤井資子（九州産業大学）

第1報告の渡邊真治先生（大阪公立大学）の研究報告では、日本においてデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展が遅いという課題に着目したものでした。アンケートデータの分析から、DXを推進するための要因のうち、リーダーシップと組織文化要因の関係を明らかにしたうえで、組織に関する先行研究から、我が国の組織文化を前提としたDXのロードマップを提示するものでした。アンケート調査では、既存のDX推進指標が経営者や責任者の視点に重点が置かれたものであることを指摘し、DX推進の仕組みを機能させるためには現場の視点が必要であることに着目した質問項目を整理し、2つの調査が行われていました。そのアンケート調査結果の因果分析を行うことで、組織的・文化的要因、戦略要因、DX要因の3つに大別されるアン



写真1 合同研究発表会の様子

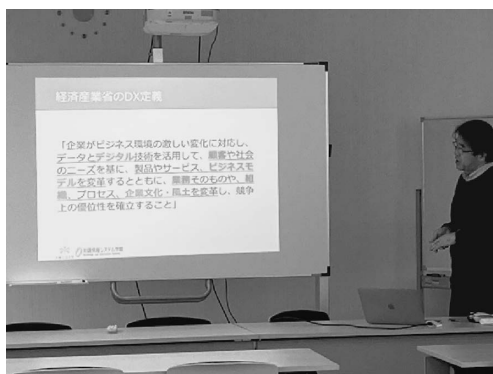


写真2 第1報告の渡邊真治先生

ケート調査項目の因果経路を分析し、組織文化要因が異なる産業において比較検討がされていました。

今後の展開として、国際的なインタビューやアンケート調査を通じて、DX推進要因の国際版成熟度モデルの作成に着手されていて、今後の研究がとても楽しみです。

第2報告「日野自動車コネクティッドデータの概要と渋滞回避行動分析ならびに輸送量と経済指標の関係分析」セッション

コーディネータ：前田 瞬（長崎県立大学）

①「日野自動車・日野コンピューターシステム トラック・バスプローブデータのご紹介」

報告者：濱中俊之（日野コンピューターシステム株式会社）

第2報告①の濱中俊之様（日野コンピューターシステム株式会社）の研究報告では、日野自動車株式会社・日野コンピューターシステム株式会社についてご紹介いただき、モビリティデータの現状を概観したうえで、日野モビリティデータの特性について解説していただきました。通信機能を備えた車両をコネクテッドカーと呼び、それらから収集されるデータがプローブデータと呼ばれます。位置情報や燃料消費量、走行距離・時間、その他の車両の状態に関する情報など、さまざまなデータがあります。日野自動車株式会社・日野コンピューターシステム株式会社では、2023年から、人流と物流の課題を「デジタル」を1つのキーワードとして解決し、持続可能な社会の実現を目指して活動していることをご説明いただきました。輸送の効率化、環境負荷の

低減、輸送の安全性の向上など、さまざまな課題解決の可能性を示唆するとともに、災害時における支援にプローブデータが活用できるという具体的な事例を紹介していただきました。

研究者と連携し、プローブデータの多様で有効な活用方法が見いだされる可能性に満ちた今後が楽しみです。

②「トラックプローブデータを用いた物流センサスなど経済関連指標との関係性」

報告者：森田裕之（大阪公立大学）

第2報告②の森田裕之先生（大阪公立大学）の研究報告では、トラックのプローブデータから、経済動向に関係する指標を、可能な限りリアルタイムに近く作成することを目的とした研究の内容が報告されました。人、モノ、カネ、情報の動きから経済動向を捉えることが重要であり、モノの動きの指標化は、モノの動きに関する経済動向を説明する要因になるというのがこの研究の背景です。

物流の世界で利用される統計データである物流センサスのデータと比較するため、流動、純流動、総流動とトラックプローブデータとの違いを整理し、物流センサスのデータとトラックプローブデータとの比較のフレームワークについて説明がありました。今回の報告では、まず物流センサスの3日間調査のデータと、その調査と同じ日付のトラックプローブデータを比較し、その類似性について確認した結果が報告されました。加えて、より長期の期間におけるトラックプローブデータとマクロ経済指標との関連性も相関係数などの確認が報告されました。今後は、より長期的なデータを用いて鉄鋼業指



写真3 第2報告①の濱中俊之さん



写真4 第2報告②の森田裕之先生

数や消費者指数などのマクロ指標との関係性を確認していくことが可能になります。

今回は物流センサスの3日間調査との比較が中心の報告でしたが、今後、より長期的なデータを使った分析を試みると、モノの動きに関連する経済動向を説明することができそうです。今後の展開が大変楽しみです。

③「渋滞発生状況での配送最適化」

報告者：白井康之（大東文化大学）

第2報告③の白井康之先生（大東文化大学）の研究報告では、既存の Google Map やカーナビの移動時間予測は、あくまで現時点での情報に基づくものであるのに対し、曜日、天気、時期、季節、時間等の情報に基づき、ルート変更した際の経過時間をより厳密に（確率的に）予測する仕組みを作りたいという研究目的でした。検証データとして示されたのは、埼玉県国道17号線上り、熊谷バイパス出口（埼玉県鴻巣市）→大宮バイパス入口（さいたま市宮前交差点）において、17号ルート直進のケースと上尾道路迂回のケースで、2017～2023年の10月、11月の大型トラックを対象としたデータでした。別の経路を通った場合の経過時間を他の車の類似状況での通過時間から予測し、最短時間経路と現実の経過時間を比較するという研究で、スタート地点の熊谷バイパス出口付近1km以内の通過記録があるものに Start のタグをつけ、ゴール地点の大宮バイパス合流地点1km以内の通過記録があるものに Goal のタグをつけ、同じ車台番号で Start と Goal のタグが2時間以内になっているものを対象とし、時間帯別・曜日別・降水量別の各移動時間比較が検

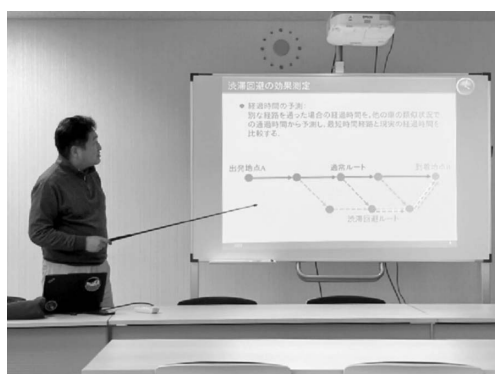


写真5 第2報告③の白井康之先生

証されていました。最終的なゴールは、精緻な渋滞予測と渋滞回避効果予測とのことで、今後の展開が大変楽しみです。

第3報告「量子時代の経営組織研究」

報告者：増田 靖（光産業創成大学院大学）

コメンテータ：四本雅人（長崎県立大学）

第3報告の増田靖先生（光産業創成大学院大学）の研究報告では、量子技術の急速な進展を背景にした、経営組織研究のあり方に関する考察が行われていました。量子論に立脚すると、これまで見ることができなかったものが見えるようになり、また、これまで知ることができなかったことが分かるようになることでした。この量子論を経営理論へ応用するにあたり、量子の世界、量子論と社会科学を繋ぐ哲学（Karen Baradの科学と倫理に関する哲学的論考、David M. Bojeの語る組織論等々）、量子の世界を語るための哲学（カントの純粋理性批判から解釈学と現象学、ポストモダンの哲学等々）、量子時代の「いま・ここ」の哲学（カント、メルロー＝ポンティ、本居宣長）、量子時代の研究と実践の方法論（量子もつれ、重ね合わせ、回折・干渉）が述べられ、最後に、量子時代の大転換期における新しい経営組織研究のあり方（新しい方法論、記述法、実践論）を創出することの重要性を説かれていました。壮大なストーリーテリングで、難解ではありましたが、大変刺激になる研究報告でした。



写真6 第3報告の増田靖先生

以上、5つのいずれの研究報告も大変興味深いものばかりで、質疑応答では活発な議論が展開されて

いました。

合同研究発表会終了後は、九州産業大学から天神の南方にある渡辺通に移動し、創作料理屋さんの「木乃芽」で懇親会を開催しました。市街地の大通りから小路に入ったところにある隠れ家的なお店で雰囲気満点。お料理もお造りから肉料理まで、御馳走を皆さん、堪能していました。



写真7 木乃芽さんのコース料理（「木乃芽」の公式サイトより）

3. さいごに

こうして、2024年度経営情報学会九州・沖縄支部／関西支部／ソーシャル・データサイエンス研究部会の合同研究発表会は幕を閉じることができました。この4ヶ月前に、経営情報学会の全国研究発表大会が同じ福岡の西南学院大学で開催されましたが、今回も全国からご参加いただきまして、本当にありがとうございました。

次年度もまた3月頃に、九州・沖縄支部の研究発表会を開催したいと考えておりますが、3年間、ずっと福岡での開催でしたので、次回は他のところ（南の方?!）で開催できればと考えております。次回の研究発表会の詳細が決まりましたら、本学会のメールマガジンにてご案内致します。

九州・沖縄支部への問い合わせ先

br.kyushu-okinawa@jasmin.jp